

〈報道関係のみなさま〉

## 特集は「時代を知るための120冊」

### 「月刊 Journalism」9月号発売!

株式会社朝日新聞社（代表取締役社長：渡辺雅隆）が発行する「月刊 Journalism」9月号が9月9日に発売となりました。

秋の読書特集として「混迷する世界、本質を読み解く 時代を知るための120冊」を取り上げました。

各界で活躍する識者12人に、それぞれの専門分野や興味があるテーマについて、「読むべき本」を10冊ずつ紹介してもらいました。

慶応義塾大学教授の井手英策さんは「財政や経済のできごとを考えるための10冊」、東京大学教授の宇野重規さんは「保守とリベラルを知るための10冊」。新進気鋭のライターである武田砂鉄さんは「従順な私たちに皮肉を教えてくれる10冊」を選んでいきます。

このほか、ヘイトスピーチ、貧困、メディア論、ジャーナリズム論、戦争と核、芸術、映像などそれぞれの専門家が本を語っています。

120冊は時代の水先案内人になるでしょう。「時代を見抜く目」を育むために、読書の大切さを訴える内容となっています。

「月刊 Journalism」は2008年10月、研究誌をリニューアルする形で創刊しました。「ヘイトスピーチを考える」（13年11月号）や「メディアは権力監視ができるのか」（16年4月号）、「右派運動ってなんだろう?」（16年5月号）など、メディア誌の視点からさまざまな問題に取り組んでいます。

定価800円（税込み）、年間購読料は8800円（税・送料込み）。全国の書店、ネット書店、ASA（朝日新聞販売所）で注文によってお求めいただけます。

